

景気ウォッチャー調査からみる乗用車販売の行方

ーポイントー

- ・乗用車販売における現状DIと先行きDIの関係を見ると、先行きDIは現状DIに対して1～2か月の先行性が見て取れる。
- ・乗用車販売統計の前年比と上記先行きDIには、先行きDIが前年比に対して3～7か月先行しているという相関関係がある。
- ・9月調査で乗用車販売の先行きDIは反転上昇し、10月調査でも上昇傾向は継続しているため、乗用車販売と先行きDIの相関関係から見ると、乗用車販売も最短で年明けごろに底打ちの兆しが想定される。
- ・足元、補助金終了により自動車販売は大きく減速しており、また、需要の先食いをもたらしている面が大きいとして、今後の経済成長の下押し要因として懸念されている。しかし、景気ウォッチャー調査から見る限り、乗用車販売は最短で年明けごろに前年比の減少幅が縮小し、上向いてくる可能性がある。

1. 乗用車関連における現状DIと先行きDIの相関

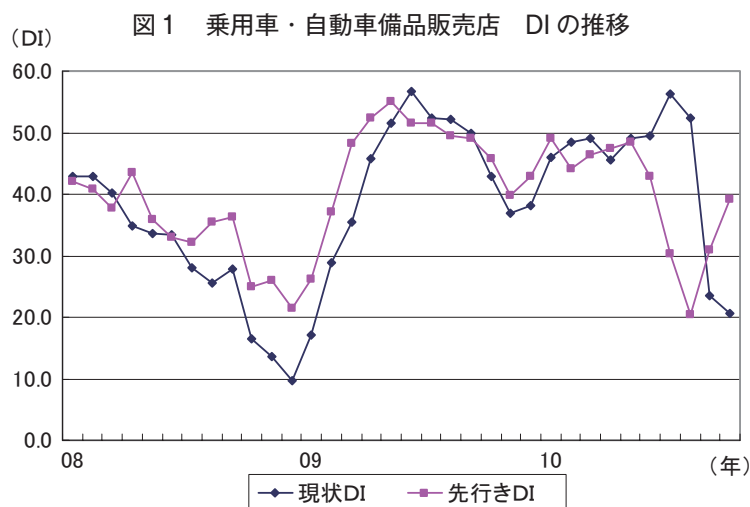
景気ウォッチャー調査における家計動向関連の「乗用車・自動車備品販売店」（以下、乗用車関連）の現状DIと先行きDIの関係は、図1のグラフのとおりとなっている。

（なお、今後特に記載が無い場合は、各DIはすべて乗用車関連DIのこととする）

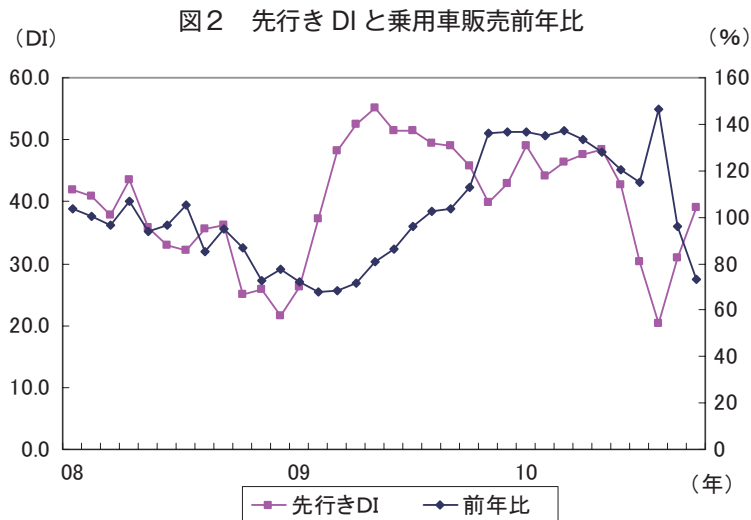
近年、2008年1月から2010年10月調査までの相関は1か月で0.8239、調査客体が全国で2,050人となった2001年8月以降でも0.8232と高く、現状DIは先行きDIに対して1～2か月の先行性があるということが言える。

2. 乗用車販売統計との相関

乗用車販売統計と景気ウォッチャーの先行きDIについて、乗用車販売台数は季節変動が大きい



* このレポートは、2010年11月1日に株式会社日本経済研究所のホームページにて公表したものに、最新の景気ウォッチャー10月調査結果を踏まえ、加筆修正したものである。

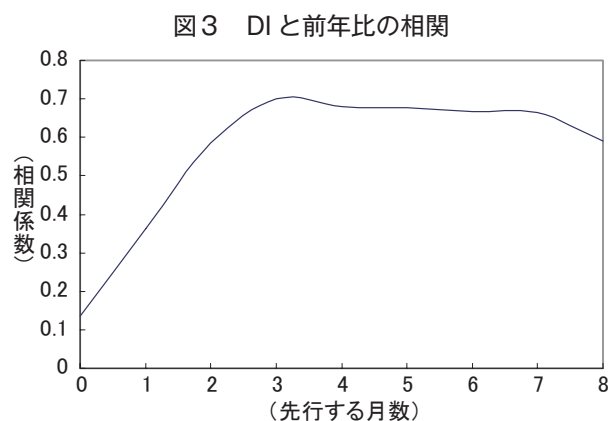


め、ここでは前年比をもって比較する（図2）。

エコカー減税・エコカー購入補助金の導入は2010年4月10日（補助金の申請開始は6月19日だが4月10日分までさかのぼって申請可能）であるため、先行きDIはその直前から期待の大きさを反映し、急上昇している。また、9月の補助金終了を見据えて先行きDIは6月より下落、8月の乗用車販売の前年比は駆け込み需要の表れとなっている。

図3は図2のグラフの相関関係を表したものである。

当月を0とし、先行きDIがどれくらい前年比に対して先行しているかを比較したものだが、相関係数は3か月をピークに7か月ごろまで0.7付近と高い位置で安定している。



このことから、先行きDIは乗用車販売の前年比に3～7か月先行しているということが言える。

3. 景気底打ちの可能性

足元、補助金終了により自動車販売は大きく減速しており、また、需要の先食いをもたらしている面が大きいとして、今後の経済成長の下押し要因として懸念されている。

しかし、景気ウォッチャー9月調査において、乗用車販売の先行きDIは反転上昇し、最新の10月調査においてもその上昇傾向は継続している。また、ウォッチャーのコメント（判断理由集）を参照しても、新車発売に対する期待等があり、決して悲観的なコメント一色ではない。

最近の動きの傾向から見ると、この先行きDIの反転を受け、現状DIは年末ごろまでに底打ちの兆しが見られる可能性がある。また、景気ウォッチャー調査から見る限り、乗用車販売についても最短で年明けごろに前年比の減少幅が縮小し、上向いてくる可能性があると言える。

この年末が景気の底となるのか、11月調査以降のDI動向が注目される。

（株式会社日本経済研究所 経済調査部 山下 茜）